



性の多様性

瀬高中学校 二年 古賀 真桜

性別には、男性と女性の二つがあるといわれてきた。確かに、科学的にはそうかもしれないが、心理的にはたくさんあると思う。

性的少数者(セクシュアルマイノリティ)の総称の一つで、LGBTQという言葉がある。Lは、レズビアン。女性を恋愛対象とする女性。Gは、ゲイ。男性を恋愛対象とする男性。Bは、バイセクシュアル。男性にも女性にも恋愛感情や性的関心を抱く人。Tは、トランスジェンダー。生まれた時に割り当てられた性別と自身の性自認が異なる人。Qは、クエスチョニング。自身の性自認が定まっていない、または探している人を指す。

近年、このLGBTQに加えて、さらに多様なセクシュアリティを含むLGBTQ+という言葉も使われている。+は、この五つに当てはまらないセクシュアリティを包括している。このLGBTQやLGBTQ+は、決して稀ではないと私は考えている。

動画を見ていると、ユーチューバーに、トランスジェンダーの子がいることを知った。両親は、この子も姉弟も同じように接するので、平等な暮らしができていくということである。私は、その子が「自分は自分や！」と父親に言っていたのを見て気づいた。「その通りだなあ」と思った。性にとらわれずに生きていく、自分より小さい子に学んだ瞬間だった。

私も、これからも性に関する偏見を持たずに生きていこうと思っただ。例えば、トイレは、公共の場には大体三つ設置されている。男性、女性、そして多目的。多目的トイレは、主に障がいのある人や高齢者などが使うため、機能は充実しているが、LGBTQやLGBTQ+の人が使いやすいわけではない。そこで、近年、LGBTQトイレというものも作られているらしい。しかし、区別、差別もなく誰もが自由に使うことができると私は思う。

【先生のコメント】
真桜さんは、「性の多様性」というテーマでLGBTQに触れつつ、身近な人物を取り上げ自分の考えや気づきを述べています。LGBTQ+のように枠組みが広がる性的指向について、真桜さんは、その考え方を認め、ユーチューバーの子から気づきを頂きました。その子の性別ではなく「自分は自分や！」という言葉に目を向けていること、偏見を持たずに生きていく考えが素晴らしいです。

また、トイレの設置という別の視点で提案する話から、差別のない社会をつくる今後の希望を感じることが出来ます。



人権擁護委員による人権相談(無料)
〜ひとりで悩んでいませんか〜

【特設人権相談所】

- 日時 ①11月19日(水) 13時〜16時
②12月1日(月) 10時〜15時
- 場所 ①山川市民センター ②あたご苑
- 相談内容 いじめ、体罰、部落差別、女性差別、外国人の問題、家庭内(夫婦、親子、結婚、離婚、扶養、相続など)、借地借家、相隣間のもめ事や悩み事など

【女性相談所】

- 日時 11月13日(水) 10時〜15時
- 場所 福岡法務局柳川支局
- 相談内容 原則として女性からの相談(夫やパートナーからの暴力、職場などでのセクハラ、パワハラおよびストーカー行為など)
※女性の権利擁護委員が相談に応じます。

【常設人権相談所】

- 時間 8時30分〜17時15分
(土、日、祝日を除く)
- 場所 福岡法務局柳川支局
- 相談担当者 法務局職員、人権擁護委員
- 相談電話番号(TEL)0570-003-110
- 福岡法務局柳川支局(TEL)72-2640



堤船人さん

地元みやまで大工として働く堤さん。高校卒業後に家業の建築会社に就職し、現在は新築住宅の建設からリフォーム工事まで、幅広い業務に携わりながら、日々現場で腕を磨いている。



【自然と志すようになった夢】
「実家が建築会社だったので、昔から建築の仕事に触れる機会は多かったです。子どものころから現場を見に行くことも多く、自然と『大工』という仕事に興味を持つようになりました。」

建築業を始めて4年目の堤さん。初めて任された仕事は、友人宅の玄関周りのリフォームだった。「リフォームが完成して友人に喜んでくれたときは、とても嬉しかった。」と当時を振り返る。

「完成した家を見て喜んでくれるお客さまの姿を見ると、やりがいを感じます。丁寧に、短い期間で仕上げ、お客さまに満足してもらえようという作業することが理想だと考えています。」

現在は、施工管理技士の資格習

得に向けて勉強中。「大工仕事は現場で覚えることが多いですが、資格を取れば仕事の幅が広がります。今後はもっと大きな仕事にも挑戦していきたいです。」と語る。

【現場で磨く職人の力】

最初は、木材を削る機械の扱い方や、家の枠組みを組み立てる感覚などがなかなか掴めなかったという堤さん。家族や周りの人達に教わりながら少しずつ経験を積んでいった。できることが増えるにつれて、自信にもつながっていったという。「最初は周りの人に聞いてばかりでした。でも今は、自分で考えて形にできるようになったのが大きな成長です。段取りや準備を自ら考え、効率的に進められるように意識して行動しています。」

大工として日々現場に立つ堤さんは、仕事の傍ら、商工会や消防団にも所属し、地域活動にも取り組んでいる。

「子どものころから過ごしてきたこの場所だからこそ、住みやすさを実感しています。地域から信頼される大工を目指して、これからも腕を磨いていきたいです。」



(提供) みやま市商工会



▷市商工会青年部による「サントラフェクト」の様子。右から4番目が堤さん。

▷令和6年度市消防出初式でプラカードを持つ堤さん。